

平成 17 年度第 4 回研究会のお知らせ

標記第 4 回研究会と忘年会を下記のとおり開催します。

- ・日時：平成 17 年 12 月 9 日（金曜日）
午後 14：30～17：00
- ・場所：東京大学生産技術研究所
駒場 キャンパス 会議棟第4会議室
目黒区駒場 4 - 6 - 1 Tel：03-5452-7023
<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/map/index.html>

1. 研究会 14:30～17:00

内容：画像計測と動画像処理

司会：大谷仁志（トプコン）

14：30 - 15：00

1. 画像トータルステーションと 3D 計測
大谷仁志（トプコン）

15：00-15：30

2. 画像トータルステーションを用いた石垣の復元
蔵重裕俊（計測リサーチコンサルタント）

15：30-15：50 コーヒーブレイク

15：50 - 16：25

3. 全周囲映像と 3 次元計測
若桑朝之（岩根研究所）

16：25-17：00

4. 動画像処理による自動標定
穴井 哲治（トプコン）

2. 忘年会（17:30～）
武蔵や

3. 4th International Image Sensing Seminar on 3D Measurement, Modeling and Visualization by New Digital Sensors

標記セミナーが 8 月 15、16 日と ETH Zurich で開催されました。日本側からの参加者は 10 名、スイス側から 14 名でした。高解像度衛星画像による DTM 作成、パノラマカメラによる 3D モデルの作成、3D レザ、デジタルカメラ当等 17 編の話題提供に対して活発な討議・情報交換が行われ、極めて有意義な会議でした。提供話題に関しては以下の HP から閲覧できます。

<http://www.photogrammetry.ethz.ch/arida05/>

4. 文化財と三次元計測の投稿募集

文化財の修復や記録、バーチャルリアリティの構築等の観点から文化財に対するデジタル化が近年注目されています。このような背景から世界各地において貴重な文化財に対する測量が行われていますが、その手法は必ずしも近代的測量手法ではなく、多くの場合において古典的測量技術が採用されています。

それにはいくつかの理由があるかと思われませんが、一つにはセンサー技術の飛躍的な発展を背景に登場した革新測量技術の文化財計測への応用性に対する認識にあるかと推測されます。

そこで、(社)日本測量協会の編集委員会において平成 18 年 5 月発行予定の雑誌“測量”において、従来の測量手法（例えば、トータルステーション）にとらわれない文化財に対する三次元計測技術の紹介として、標記テーマに関して特集号を組むことに決めました（特集号担当、近津）。

この特集では 3D レザースキャナー、デジタルカメラ、高解像度衛星画像、動画像、ラジコンヘリなどを利用した新しい測量技術の文化財計測への有用性を紹介することを目的としています。

1 テーマ A 4 サイズに図（カラー可）・表などを含めて 4 ページとして（技術的背景、システム概要、応用事例）として原稿を募集します。原稿締め切りは 2 月末日となりますが、皆様からの新しい測量概念、測量技術による文化財計測事例の寄稿をお願いいたします。

詳しくは近津（chikatsu@g.dendai.ac.jp）までご連絡ください。

5. 空間情報工学概論 -実習ソフト・データ付-

標記教材が 8 月末、(社)日本測量協会より出版されました（3,500 円、編集担当、近津博文）。本書の特徴はパソコンで自主的に空間情報工学の概念を学べる新しいタイプの教科書として、コンピュータ上に再現された仮想空間上で測定値の処理や誤差解析が学べる 3D 測量シミュレータ、さらにはリモートセンシングにおける画像処理や画像間演算および地理情報システムにおける位置情報の記述や空間分析の概念を実際に試すことができるソフトウェアおよびデータを CD-ROM で添付していることです。是非一度お試しください。

6. 祝う“博士号取得”

会員である横山 大氏（日立プラント（株））が 10 月、東京電機大学より“文化財の効率的な幾何データの取得と三次元モデリング手法に関する研究”で博士（工学）の学位を取得しました。おめでとうございます。

文責：近津博文